

座談会<テーマ>

笑顔で「自分らしく」いるには？

～「女性が輝く社会」を考える

◆出席者

♡大塚真理子さん
特定社会保険労務士
・大塚真理子行政書士会保険労務士事務所長

♡奥井美代子さん
農業

♡川井香織さん
川井香織建築設計事務所一級建築士

♡司会・男女共同参画センター

大塚真理子さん 奥井美代子さん 川井香織さん

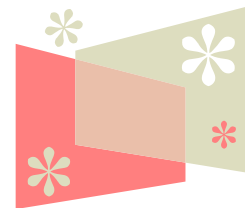
すべての経験があって、今の自分がある

- 司会—大塚さんは開業して17年だそうですが、現在のお仕事に就いたきっかけは何ですか。
- 大塚—勤めはしていたものの明確な目標もなく、30歳を前に生き方にすごく迷っていました。その頃、父に「何か資格を取ったら」と言われ、勧められるがままにまず、行政書士の資格を取りました。何もない自分が社会で生きていくには国家資格しかないと思って。
- 司会—奥井さんはなぜ農家に。
- 奥井—小学生の頃は給食のおばちゃんになりたくて。大学卒業後、調理関係の職場に入りました。会社の環境や人間関係が嫌で3年で辞め、同じく調理の仕事を見つけたのですが、結局、就職はやめて26歳半ばかり実家にいました。農家にはならないと思っていたけれど、母が体調を崩し、私が母の畑を受け継ぐことにしたんです。専業農家になることに父は最初、反対しましたが、一人で始めました。3年になります。
- 司会—川井さんは小さい頃からの夢をかなえたんですね。
- 川井—小学4年生で自分の部屋をもらってインテリアに興味を持ったのがきっかけです。工業高校の建築科を出て工務店に就職しました。同期で女子は私一人。女性は中で仕事をしていればいいという感じで、私だけ作業服をもらえなかったのですが、社長に「作業服を下さい。現場に出して下さい」と直訴して。3年間、現場監督を経験し、設計事務所に移りました。24歳で結婚、翌年に出産して、家事や子育てをしながら働いて、1級建築士の資格を29歳の時に取って独立しました。来年、10年です。



大切にしたい家族や友人、地域のつながり

- 司会—それぞれ、今の自分にたどり着くまでに色々な困難があったと思いますが、どう克服してきましたか。
- 大塚—この業界はベテランが多く、男性社会でしたから、まず早く表に出なければと思い、資格を取ってすぐ開業したんです。何も知らなくて、最初は仕事も収入もなく、何度も落ち込みました。そんな時に会った業界の先輩が、仕事のこと、心の持ち方など、親身にたくさんのヒントをくれました。その人のおかげで前に進めて、少しずつ顧客や仕事の種類を増やしてきました。現在では正社員を雇い、日々仕事に励んでいます。



トラクターで作業する奥井美代子さん

- 奥井—畑もトラクターも母のを受け継いで、恵まれたスタートでした。農繁期は3カ月休みなし、朝5時から夜まで仕事です。草取りは面倒だし、道具は重いし、臭うものも扱う大変なことはたくさんあるけれど、私の作った野菜がいいと言ってくれる人がいることが一番の支えです。母の野菜を買ってくれていた方で、娘の私の野菜を買い続けて下さる人もいます。農家の女性たちはみんな強くて芯があって、見習う部分が多いですね。母の畑だから、周囲の農家も子どもの頃からの知り合いで、おじさん、おばさん達が皆、大切にしてくれます。

■川井—困難はあったのかもしれないけれど、ずっと楽しかったですね。壁にぶつかっても気付かなかったのかも。いつの間にか蹴飛ばして進んできたような。現場が好きだったし、髪振り乱して独立まで頑張れたのも、若かったからかな。建設業界は女性が少なく、家庭と仕事を両立させているようなモデルとなる女性の先輩もいませんでしたが、やってできないことはないって思っていました。3年前に島根県内の建設業で働く女性の会を作ったのですが、やはり会社でモデルになる女性がいなくて将来に不安を感じていたり、圧倒的に男性が多い世界で、更衣室やトイレがないとか、つながってみると、いろんな悩みがあるのだと知りました。

生き方や働き方など自分で選択できる社会に

■司会—女性が輝く社会とはどんな社会だと思いますか。

■大塚—いま言われているのは、働くこと、結婚して家庭を持つことが前提になっている気がします。いまの社会では女性は夫や家族、生活が仕事に影響しやすい。「女性が輝く」だけでは解決しないし、女性は盛り上がりたかもしれない。

■奥井—友人には専業主婦、家庭と仕事の両立に悩む人、独身の人、子どもができない人などいろんな人がいます。みんなすごく頑張っているのに、少子化と言われて肩身の狭い思いをしたり、サポートも十分じゃない。そんな中で「女性が輝く」と掲げて同じ方向を向きなさいと言われると「無理」という人が出て仕方ない。でも、その人たちを置き去りにしたら、意味がないですよ。

■川井—女性の活躍推進などと言われているんですが、役職をつけるだけじゃなくて、その人が本当に働きたいのか、子どもが小さいうちはそばにいたいと思っているのか、生き方や働き方をもっと自分で選択できる社会になるといいと思います。「活躍」って、働くことだけじゃない。いろんな活躍があると思います。



住宅設計のアドバイスをする川井香織さん



今しかできないこともある

できることを一生懸命取り組めば、それが自然と力になり未来に反映される！



事務所で仕事に取り組む大塚真理子さん

■司会—同じ時代を生きる女性たちへ一言。

■大塚—どんな状況にあっても目標を持つことが大事だと思います。働く女性に限定すると、「働いている時はその道のプロになってほしい」。仕事は3時間でも5時間でも全身全霊で。真剣に一歩ずつキャリアを積んで、自分ができることを積みかさねていくことが大切だと思います。あと、時には落ち込むこともあります。長くは続かないし、いつか上昇するから。長い人生の中でそういう堪え忍ぶ時期というのもあっていいと思います。

■奥井—やりたいことをやってみる。会社を辞めるとき、いざこざがあつてすごく嫌だったけれど、一歩、何かをなぎ倒す勢いでやってみたら案外、できた。昨年、結婚したのですが、もし子どもができたなら産む直前までトラクターに乗っていたいですね。身近にモデルになる人がいないので自分が前例となってもいいと思う。

■川井—困難はあまりなかったように言いましたが、私もたぶん、いろいろあったはずなんですよね。その時その時の自分を、いい自分も悪い自分も受け入れる事ができていたんだと思います。女性が輝くためには、男女ともに働きやすい、生きやすい社会になるといいなと思います。



■司会—女性の数だけ考えや立場もあります。ぶつかったり転んだりしながらも、楽しそうに、ニコニコして頑張っている女性たちがいるというのは、それだけでも励みになります。自分らしくいられる工夫や努力を楽しんでいる姿は活き活きと輝いて周囲まで明るく元気にしてくれます。ハッピーな笑顔は家庭、職場、地域のなかで大きなチカラになることでしょう。